

## 2013 年度点検・評価シート

## I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 3	教員・教員組織
点検・評価項目(1)	3-1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
評価の視点	教員に求める能力・資質等の明確化
	教員構成の明確化
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
点検・評価項目(2)	3-2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
評価の視点	編制方針に沿った教員組織の整備
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備
点検・評価項目(3)	3-3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
評価の視点	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化
	規程等に従った適切な教員人事
点検・評価項目(4)	3-4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
評価の視点	教員の教育研究活動等の評価の実施
	教育活動・研究活動等の業績の公表状況
	ファカルティ・ディベロップメント (FD) の実施状況と有効性
点検・評価項目(5)	3-5 教員組織の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

## 【点検・評価項目ごとの現状説明】

3-1	<p>学部の求める教員像とは、自らの専門分野における優れた研究成果を上げ、担当科目の教育において真摯に取り組み、文学部の現状と将来について、協力したゆまぬ検証と努力を行っていく人物である。文学部のあり得べき教員組織の編成方針とは、必修科目や、基盤となる科目に専任教員を配置し、受講者数の極端なばらつき等を解消し、教育効果がより良いものとなることである。</p> <p>採用・昇格の人事において、基準（内規）に照らし、優れた人材を確保、活用可能な方針が定められている。研究・教育・実践、等の観点から、厳正に実施している。</p>
3-2	<p>教育職員 1 人当たりの学生数は、日本文学科 42.35 人 中国学科 38.08 人 英米文学科 44.50 人 教育学科 18.43 人 書道学科 23.17 人である。（特任を含む）</p> <p>学部全体の年齢構成：61 歳以上 46.4%、60～51 歳 22.6%、50～41 歳 22.6%、40～31 歳 9.5%、30 歳以下は 0 である。（61 歳以上に 1 名の特任教授、40 歳以下に各 1 名の助教、特任講師を含む）</p> <p>学部全体（全教育職員 85 人）に占める女性教育職員の割合は 17.65% である。</p>
3-3	<p>教育職員の募集・採用・昇格等については、大東文化学園規程で教員選考基準を定めている。その他、文学部の内規、学科の内規が設けられており、適切に運用されている。採用に関しては、教員定数に基づく人数等の調整が学部長会議で行われ、その後、学部教授会において公募、審議がなされ、常務審議会を経て理事会で正式決定されている。</p> <p>選考に際しては、①当該学科専任教員の年齢構成において適正であること②当該学科専任教員の出身校比において片寄りが無いこと③当該学科科目編成において適正であることに配慮して実施している。</p>
3-4	<p>毎年度後半、「学生による授業評価アンケート」を実施し、教育活動の評価を行っている。また、授業方法・内容の改善を目指した「FD委員会」が組織されており、年数回の研究会を開催し、実施後、報告会を行い、取り組みの改善や方向性等について議論を重ねている。また、新人教育研修会及び教員の社会貢献・管理業務等に関する資質向上を図るための研修会は、特段実施していない。</p> <p>教員の教育研究活動等について、学部としての評価を実施してはいない。教育活動・研究活動等の業績は、大学ホームページ上、公開され、毎年更新されている。</p>
3-5	<p>認証評価における基準、学部・学科の「理念・目的」に基づくカリキュラムとの対応、「教職実践演習」等の文科省の方針、時代の要請に見合うグローバルな人材の育成、等、多角的な方面から検証し、公正な手続きによって実施されている。</p>

## 【効果が上がっている事項】

3-1	学部において独自の教育職員選考規程を定め、選考の方針を明確にしている。
3-2	学生定員に対応する教員定数を守り、特任教員・助教・研究補助員等、適切に配置されている。
3-3	選考方針を明確化し、基準に照らして公正な運用が行われている。
3-4	教育活動・研究活動の実績を、各学会（学科主体）の刊行雑誌等において公開し、大東文化大学ホームページにおける「教員情報」においても公開している。FD委員会の活動が積極性を増している。
3-5	授業評価アンケート実施後の分析・検討、FD委員会活動の報告や反省等を実施している。

【改善すべき事項】

3-1	特になし
3-2	年齢構成、男女比率について改善すべきである。
3-3	特になし
3-4	FD活動の活性化が必要である。
3-5	例えば書道研究所の所長人事や運営委員会の構成人員の選出等、大学が設置している組織ではあるが文学部と関連の深い部署について、規定等の検証を含め、明確にする必要のあるものがあることを進言する。

Ⅲ 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

学校法人大東文化学園規則集 文学部教員選考規程
-------------------------

【2014年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	・採用人事に当たり、年齢構成、男女比率について、更なる検証を行う。	・年齢構成、男女比率の数字。 年齢構成は、極端な世代の偏りがないように配慮する。男女比率は数字としてあげるとは困難であるが、各学科における女子学生比率も決して小さくはないことに鑑みて、女性教員が皆無であるという状態は避けるように努力する。	→					
	・FD活動を活性化させる。	・FD活動の実績の分析と対策。 FD活動の分析と対策について、教授会において報告され、FD活動報告書が作成される。	→					
	・適正な人事が徹底するように、執行部にも進言する。	・人事の適正に関する結果を確認する。 適正な人事の基準とは、外部（他学部）からの委員を構成メンバーに付加し、偏向した運営にならぬようにしていくこと。その人数の比率を検討する。	→					
14年度 目標	指標となるもの3点のうち、可能なものから実施する。 FD活動を活性化させる。	研究集会、報告会への参加者数の（前年度比）増加。	→					